

# 「台湾リス」はどこから来たの？

みなさんが見たことがあるリスは  
台湾リスでしょうか？  
それとも、日本に本来いるニホンリスでしょうか？

台湾リス

ニホンリス

この動物は、中国南部や東南アジアからやってきた外来種\*です。ペットとして飼われたり、動物園で飼育されるために、日本に運ばれてきましたが、逃げ出して各地で野生化しています。外国からきた台湾リスについて知ることによって、もう一度、わたしたちの身のまわりの自然を考え直してみましょう。

※外来種：他の地域から人間によって持ち込まれ、野生化した生物



おなかが赤色のタイプ

おなかが灰色のタイプ

## 台湾リス

(原産地：中国南部、台湾、インドシナ半島、マレー半島)  
(日本で野生化した地域：伊豆大島、神奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、和歌山県、兵庫県、熊本県、長崎県、大分県)

正式名称はクリハラリス(栗色の腹という意味)。  
ニホンリスよりもひとまわり大きく体重は300~400g。  
おなかの毛は栗色や灰色、背中や脇は灰褐色。  
毛色は季節変化しない。耳は短く丸い。  
食べるとき尾はたれたまま。



冬毛

夏毛

## ニホンリス (原産地：日本の本州、四国)

日本の本州、四国のみで生息する固有種\*。  
体重は250~300g。

おなかの毛は白色で季節変化しないが、背中などの毛は季節変化する。夏は赤茶色でとくに手足は赤い。冬は灰白色で耳にはふさ毛が生える。食べるとき尾を背中にせおう。

※固有種：その国、あるいはその地域にしか見られない生息範囲の限定された種類

# 原産地での暮らし



頭上を飛ぶワシ・タカ類を見かけると、リスはガッ!という大声をあげる。これを聞くと、まわりのリスは動きを止める。

チー  
チー

ガッ!

ワンワン  
ワンワン

リスの巣をおそい、子リスを食べるへびをみつけると、リスはチーチーという声を出し、みんなで攻撃(こうげき)をしかける。

台湾リスは一年中暖かで雨が多い、熱帯の森にくらす生き物です。そこでは、1年中いろいろな種類の植物が果実を実らせます。こうした果実が台湾リスの主食です。熱帯の森にはさまざまな天敵てんてきがいて、台湾リスは独特の声で天敵の存在を知らせ合います。

地上にひそんでいる敵をみつけると、しつこくワンワンワン……と鳴きつづける。この声を聞くと、まわりのリスは木の上上がり、じっと様子をうかがう。

台湾の自然林では、年間30種以上の植物の果実が餌として利用される。とくにイチジク科の果実が森のあちこちから1年中実っているので、食べ物に困る時期はない。



# 日本での暮らし



日本の冬をのりきるために、地面にまだ残っているドングリをさがす。

## 木を枯らす台湾リス

台湾リスが樹液をなめるためにかじったあとは、特徴的な環状食痕（かんじょうしょっこん）になる。ツバキ、タブノキなどの樹種でよくみられる。ケヤキやカエデなどでは、環状食痕ではなく、一面に樹皮をはぎ取られる。ひどくはぎ取られた木は枯れてしまう。



環状食痕

## 温かな巣

台湾リスの巣は枝が集まった直径約40cmくらいの球状をしている。巣の中には樹皮を細かくしてつくった繊維状（せんいじょう）のフンがしきつめられ、保温効果がある。このほか、キツツキ類が空けた樹洞（じゅどう）や人家の戸袋（とぶくろ）にも巣をつくる。



巣の外観



巣の中

## 農作物をあらす台湾リス

林に近い畑は台湾リスの餌場になり、ダイコン、ホウレンソウ、キャベツなどの農作物がけられる。ミカンやブドウなどの果実、ツバキの種子など、甘いものや油の多いものも大好物。



熱帯原産の台湾リスが日本でどのようにくらしているのでしょうか？四季の変化がある日本では、果実を1年中、餌として利用することができません。餌の少ない冬や春先には、樹皮をかじって樹液をなめたり、農作物やゴミ箱の残飯をあさります。日本の寒い冬をのりきるために、枝や葉を組み合わせ、樹上にしっかりとした巣を作ります。

# 台湾リスの一生

1年中温暖な気候と豊かな食べ物がある原産地の台湾リスは、決まった繁殖期はなく、何度も子育てを繰り返します。でも、巣の中の子どもはヘビに食べられてしまうこともあります。それに、巣から出れば、タカ類がねらっています。豊かな熱帯の森は、天敵も多いのです。日本では、それらの天敵はかなり少ないので、生まれた子どもの多くは生き残り、巣立ったあとも長生きします。



1

妊娠期間は40日間。母親だけで子どもを育てる。

2

生まれる子どもはふつう2匹(1~3匹)。1年に何回も子どもを生む。餌があれば1年間に3回は出産する。



原産地では、ヘビ類、タカ類、肉食獣に捕食される。

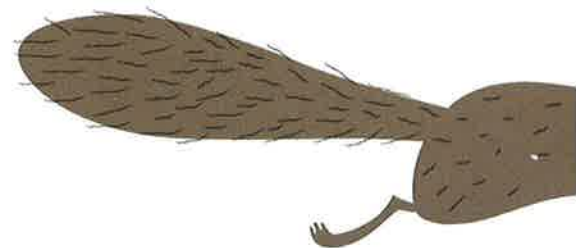
3

生まれて40日ほどで巣外へ出る。その後、しばらく母親や兄弟と一緒に行動する。



4

やがて自分の行動圏をかまえ、約1年で大人になり、子どもを生むことができる。

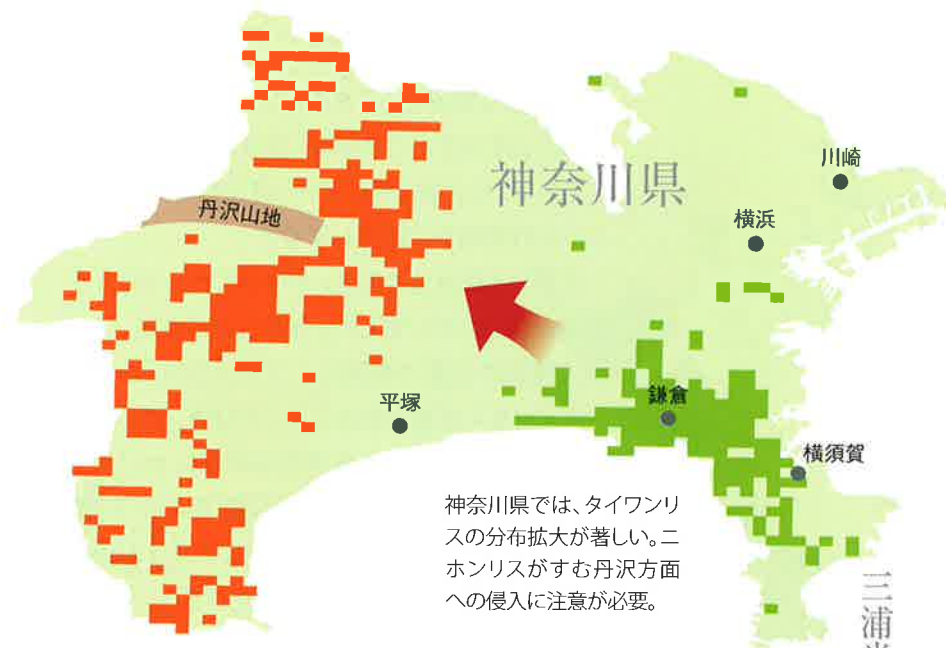
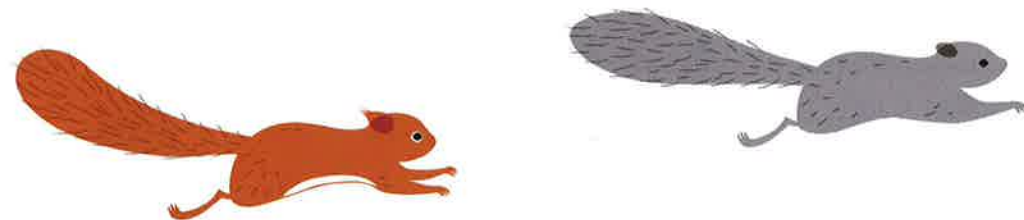




# 日本でふえつづける台湾リス



神奈川県の湘南地域で台湾リスの野生化が最初に確認されたのは1950年代です。最初のうちは個体数が少なく、めったに観察されませんでした。30年後には約30km<sup>2</sup>の範囲に生息し、かなりふつうに見られるようになりました。50年後には300km<sup>2</sup>にまで分布が広がり、農作物への被害が多くなりました。このまま分布が広がり続けると、多くの野生動物がくらす箱根や丹沢の山塊にまで侵入することになります。そこでは、どんなことが起こるのでしょうか？



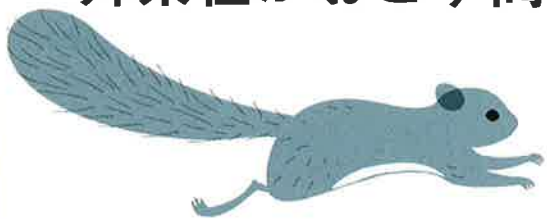
神奈川県では、台湾リスの分布拡大が著しい。ニホンリスがすむ丹沢方面への侵入に注意が必要。



1984年～2005年にかけてのデータをもとに作図



# 外来種がおこす問題



## キタリス

ユーラシア大陸に広く分布する。日本では北海道に亜種エゾリスが分布する。ニホンリスと遺伝的に近い種類であるが、ひとまわり大きく体重 300~480g。



## トウブハイイロリス

カナダ南部からフロリダにかけての北アメリカ大陸東部が原産。

体重は 340~750g。イギリス、イタリア、アフリカにも放され野生化している。

どんどん増えていく台湾リスがこの先、どんなことをひきおこすのか、予想が付きません。

そこで、ひとあし先にイギリスでおきた外来種のリスの問題をご紹介します。

イギリスにはもともと、キタリスというリスが全域に分布していました。今から200年前、イギリス南部の公園や庭園に、アメリカからトウブハイイロリスが放されました。その後、このハイイロリスはイギリスの南部から中部にかけて分布を広げました。ロンドンの公園で人なつこく餌を食べに来るリスは、じつはアメリカからやって来たハイイロリスだったのです。

現在ではイギリスのほぼ全域にハイイロリスが広がり、それと同時に、もともと生息していたキタリスが減少し、絶滅の危険にさらされています。ツグミ、キツツキ、カケスなどの鳥類の個体数もハイイロリスの分布にともなって減少しています。200年前に入れられた外来種の影響が、今になって明らかになって来たのです。長い時間をかけなければ、見えない変化があるのです。そして、明らかになった時点ではすでに、とりかえしがつかないのです。



1940  
キタリスは全域に分布し、トウブハイイロリスは南部だけに定着していた。



The Wildlife Trusts (1998) より



1999  
キタリスは北部のみに分布し、トウブハイイロリスはほぼ全域に定着した。

# 日本の森で何が起こる？

サンコウチョウ



メジロ  
卵がタイワンリスに  
食べられてしまう。



ニホンリス  
好物のクルミが  
タイワンリスに食  
べられてしまう。

アオゲラ  
繁殖のための樹洞  
がタイワンリスに  
使われてしまう。



ヤマドリ

モグラ



タイワンリスが増えてしまうと、日本の森の動物たちにいる  
ような影響が出ることが予想されます。

あらためて、わたしたちの身のまわりにある森の動物を考え  
てみましょう。もう森に動物がいなくなっているかもしれませ  
ん。もしかしたら、森自体もなくなっているかもしれません。そ  
こには、かつてどんな動物がいたのでしょうか？そして、この  
先どんな動物がくらす森を残していけば良いのでしょうか？



ムササビ



ムササビ  
すみかとなる樹洞  
がタイワンリスに  
使われてしまう。



アカネズミ  
好物のドングリがタイワ  
ンリスに食べられてしまう。



タヌキ





それぞれの生き物は長い進化のなかで、それぞれの土地にあった暮らしをしてきました。台湾リスは、暖かい東南アジアの森で、豊かな果実を餌として利用し、旺盛な繁殖力<sup>おうせい</sup>を身につけています。しかし、その森には多くの天敵がすんでいて、台湾リスが増え続けることはありません。しかし、台湾リスは日本の環境の中で、自然の果実だけではならず、樹皮や農作物を利用し、繁殖しています。日本には天敵が少ないため、個体数は増加する一方です。台湾リスがこのまま日本の森に増え続けたとき、どんなことが起こるのか想像してみてください。

わたしたちの身の回りの森には、日本にしかないニホンリスやムササビなど、固有の生き物がすんでいます。それらの生き物が長い進化の過程を経て、互いに関わりながら生きてきました。そこに台湾リスが増え始めれば、われわれ人間が気づくか気づかないかは別として、もともといる生き物に影響を与えることになるでしょう。

日本に入れられてしまった外来種台湾リスの問題をきっかけに、もう一度、どのような生き物がすむ環境を次の世代に残していくべきか、考え直してみましょう。



## 台湾リスを知っていますか？

2010年8月 発行

著 者 田村典子  
協 力 繁田真由美 藤井友紀子 大久保未来  
野口郊美 安田雅俊 古田豊 中奈奈  
神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター  
写 真 山本成三 田村典子 安田雅俊  
イラスト  
デザイン 野口郊美  
編 集 リスプロジェクト  
発 行 独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園

ISBN:978-4-902606-69-0